

ゆうゆう通信

令和3年9月10日発行 第39号

発行 飯田市立病院介護老人保健施設
ゆうゆう 広報委員会
〒395-8503 飯田市上郷黒田341
電話 53-6048 FAX 53-6047

夏にぴったりな行事を行いました！

デイケア 夏祭り

今年も恒例のゆうゆうデイケア「夏祭り」を行いました。今年も昨年に引き続きコロナ禍での「夏祭り」となりました。デイルームには朝からお囃子が流れ、部屋の雰囲気も少し違い、一体何が始まるの？と思われた方も多かったのではないのでしょうか。例年は焼きそばやお好み焼きなどを、目の前で作って夏祭りの雰囲気を楽しんでいたのですが、今年もコロナ禍で中止し、お昼にドリンクサービスで好きなものを選んでいただき、皆さんで乾杯をしました。

午後からは日本の三大祭りの映像を観賞し、日本の夏を楽しみました。その後みんなで龍峡小唄と飯田りんごを踊りました。クライマックスには新調した手作りお神輿も登場し、一気にお祭りムードになりました。暑い夏の思い出がまた一つできました。



2階 七夕祭り

今年も1年延期された東京オリンピックがコロナ禍ではありましたが開催され、日本の選手の活躍に連日魅了されました。そんな熱い選手に負けず劣らずゆうゆうの夏祭りも2階全体で密にならないように集まり、リハビリ職員と一緒に準備体操や、運動を行いました。

その後は飯田りんごを皆で踊りました。昨年に引き続き今年も夏祭りやイベントが中止になりました。風物詩などを肌で感じる事が少なくなってきました。七夕行事では、短冊に「コロナが早く終息しますように」「家族がみんな健康でありますように」と皆さんが願い事を書いて、以前のような日常が早く戻ってくるようお願いをしました。今年は長雨や残暑が続く異常気象が続いていますが、早く過ぎやすい秋風が吹いてくるといいですね。



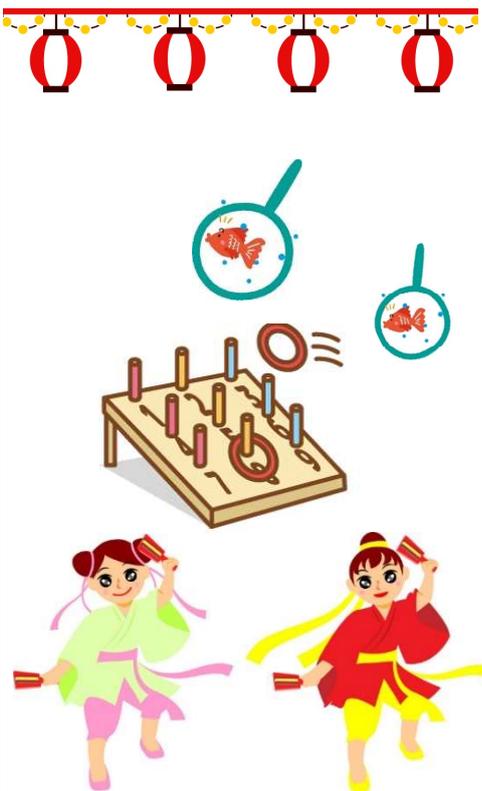
3階A 夏祭り



今年も盛大にと言うわけにはいかず、残念ながら各ユニット毎でしたが、7月12日に夏祭りを開催しました。

事前に職員の夏仕様の素晴らしい手作りうちわを飾り、夏祭りの気分を盛り上げました。当日は夏祭りと言えば「縁日」という事で、折り紙で作った金魚釣りゲームと、輪投げを楽しんだ後、昔懐かしい駄菓子を選んでお茶を飲み、昔の思い出話に花を咲かせました。

今年も外部からボランティアの参加ができません、職員による余興として、例年ならば6月に札幌で行われている「YOSAKOIソーラン」にちなんで「南中ソーラン節」を披露しました。ほぼぶっつけ本番でしたが、利用者様も「どっこいしょ」の掛け声に合わせて一緒に体を動かしたり、手を叩いて楽しんでいただけました。



3階B 今年はオリンピックで盛り上がりました!

暑い8月を迎え、東京オリンピック2020が開催される中、日本のみならず、世界中が新型コロナウイルス感染症の渦中ではありますが、3Bチームでは、「オリンピック日本頑張れ!暑い夏を乗り切ろう!」と言うキャッチフレーズで、8月4日にユニット合同で行事を行いました。利用者の皆さんは、57年の歳月を越えた東京での記念すべき行事に、どの程度の反応や興味を持って参加して頂けるか、スタッフ皆でアイデアを検討し、1964年開催の東京オリンピックを彷彿させるがごとく、当時のレコードによる音楽鑑賞や、体操、歌、サッカーやバレー選手に扮した職員のスポーツ仮装のパフォーマンス、ご利用者様も参加しての五輪送りリレー等を行い、楽しんで頂くことができました。今後も、利用者の方々の笑顔絶やさない行事を考えていきたいと思えます。



通所型サービスク 今年度も2クール実施します

ゆうゆうでは、令和元年から通所型サービスク事業を行っています。この事業は、要支援状態になる前の生活に戻れるよう、運動、口腔、栄養の各専門職による自立支援のための短期集中サービスです。利用者の介護保険からの卒業を明確に目指し、利用者の地域社会への参加を促すことを目的としています。対象者は、要支援者または事業対象者で、週1回3か月間のプログラムを実施します。特に社会参加促進を含めたセルフマネージメントが行えるよう支援しています。利用料は無料です。

今年度は6月12日から第1クールが終了し、9月25日から第2クールを実施します。運動を中心に、口腔や栄養の専門職の指導の下、それぞれに出された課題に毎週取り組みます。第1クールでは、5名の方が参加され、現在はそれぞれの地域で、支援を必要としない自分らしい生活を送られています。

この事業を通じて少しでも地域の健康長寿に貢献できると良いと思います。



新型コロナウイルス対応について

飯田下伊那地域でも新型コロナウイルス感染症が拡大し、現在、特別警報Ⅱが発令されています。会社や、学校関連の感染も報告され、今後も家族間での感染の拡大が危惧されます。

ゆうゆうでは利用者様への対応として、入所時の抗原検査・1日2回の検温・食堂テーブルへのアクリル板設置・施設内の強制換気システムに加え、定期的な窓開け換気等を行っています。

職員は、手洗い・常時マスクの着用・出勤時の検温といった基本的感染予防対策に加え、食事は各自離れて1人で食べる黙食を行い、多人数が集まる会議の開催は必要最小限にしています。

施設内への立ち入りを制限させていただいているため、ご家族の面会については、予約の窓越しでの面会とさせていただきます。ご予約の安全を守るため、ご協力をお願いします。随時職員から利用者様の様子をお伝えしていますが、ご家族様からも、お聞きになりたいことがありますたら、お気軽にお声掛け下さい。



ゆうゆうの公園が きれいになりました

施設敷地内にある公園、通称「ゆうゆう公園」は、早朝よりラジオ体操をする地域の方から始まり、ヨチヨチ歩きの赤ちゃんのお散歩、園児・学生の帰宅後の遊び場、そして出勤帰りに筋トレをするお兄さん、お姉さんと幅広い皆さんにご利用いただいています。

特に人気がある公園のベンチは、老朽化が進んできましたので、この度、樹脂製のおしゃれなベンチに生まれ変わりました。

これからも大人も子供も多くのみなさんが楽しくご利用いただける、きれいな公園を目指していきたいと思えます。



土用の丑の日 鰻を堪能

土用は立夏 立秋 立冬 立春の直前約18日間の期間を示す言葉です。

昔は暦で日を十二支で数えており、土用の期間に訪れる、丑の日の事を指しているようです。今年7月28日がその日にあたり、栄養管理係では、その日の昼食に「うなぎの蒲焼」を用意させて頂きました。

鰻は柔らかい物ですが、入所様の食事形態に合わせて、刻み食、ミキサー食など、それぞれに対応させて頂きました。各階の皆様からは大変好評をいただきました。

この時期は季節の変わり目で、体調を崩しやすいので、「うなぎ」を食べて、免疫機能を維持するビタミンA、疲労回復に効果的なB群などを体に取り入れて疲労回復、食欲増進に役立てたいです。

「うなぎ」を食べる習慣が一般に広まったのは170年代後半の江戸時代でした。一説によれば「夏に売り上げが落ちる」と鰻屋から相談を受けた蘭学者の『平賀源内』が店先に「土用の日 うなぎの日 食すれば夏負けする事なし」と看板を出し大繁盛したお話もあります。土用の丑の日には、昔も今も「元気で夏を越せますように」と願いが込められています。



新任職員紹介



管理係(事務員)
徳丸恵美子

5月よりゆうゆうに勤務させて頂いております。徳丸恵美子と申します。約5年ぶりに仕事復帰をし、穏やかな環境の中で周りの方達に支えて頂きながら日々多くの事を学ばせて頂いております。よろしくお願い致します。



高松診療所
(看護師)
木下みづ子

8月より高松診療所にお世話になっております。木下みづ子と申します。何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、ご指導よろしくお願致します。



栄養管理係(調理員)
竹下 尚美

7月から栄養管理係に調理員として勤務しております。職場の先輩方には迷惑をかけてばかりですが、日々勉強で頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



デイケア(介護員)
長谷部真希

初めまして。8月よりデイケアでお世話になっております。長谷部真希です。分からないことばかりですが、一日でも早く皆様のお力になれるように頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

《編集後記》

東京オリンピックが無事開催され、世界のアスリートからは感動、生きる力、お互いに称えあうことの大切さなどを思いださせてくれました。単にメダルの色だけではなく、大会のコンセプトでもある「多様性と調和」など、今までは無かったメッセージが発せられました。コロナ禍は続きますが、人と人のつながりを大切に、お互いを励まし合っていきたいですね。(柵)